

平成18年8月11日

各 位

会社名 株式会社D T S
代表者名 代表取締役社長 赤羽根靖隆
(コード番号 9682 東証第1部)
問合せ先 経理部長 栢原 博
(電話番号 03-3437-5488)

平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)の一部訂正について

平成18年8月2日に発表いたしました「平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)」につきまして、一部誤りがありましたので下記のとおり訂正いたします。

記

訂正箇所：2頁 「(2) 財政状態(連結)の変動状況」 (下線部分は訂正箇所を示しております。)

【訂正前】

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	32,802	26,898	80.2	<u>2,207</u> 67
18年3月期第1四半期	29,847	24,333	81.5	1,989 76
(参考)18年3月期	34,785	26,547	76.3	2,172 36

【訂正後】

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	32,802	26,898	80.2	<u>2,160</u> 24
18年3月期第1四半期	29,847	24,333	81.5	1,989 76
(参考)18年3月期	34,785	26,547	76.3	2,172 36

なお、訂正後の「平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)」の2頁を添付しております。

以上

サービス別の内訳をみると、システムエンジニアリングサービスは、金融および通信業向けの案件が好調であるとともに、製造業および公共分野等その他の業種向けも順調に推移しており、前年同期と比べて大幅に増加しました。オペレーションエンジニアリングサービスは、従来の運用業務からシステムエンジニアリングサービスに区分される基盤設計および運用設計等の上流工程での業務への移行が進んでいることが影響し、前年同期と比べて減少しました。ネットワークエンジニアリングサービスは、通信業向けの案件の増加や新規のネットワーク構築案件の獲得などにより、前年同期と比べて増加しました。プロダクトサービスは、主要顧客からの大型案件の受注により、前年同期と比べて大幅に増加しました。人材派遣は、通信および金融業向けのコールセンター業務の受注が拡大し、前年同期と比べて大幅に増加しました。

利益率が低いプロダクトサービスおよび人材派遣の売上高構成比の増加や外注費の増加等による原価率の上昇に加え、新規事業の開発やグループ総合力強化に向けた資本・業務提携の推進、教育研修費や採用関連費等の戦略的な販売費及び一般管理費を増加させたことにより、営業利益率および経常利益率が前年同期と比べて低下しました。しかし、売上が大幅に増加したことにより、利益額は、営業利益が8億76百万円となり、前年同期と比べて6.3%増加し、経常利益が9億9百万円となり、前年同期と比べて6.2%増加しました。また、四半期純利益は5億6百万円となり、前年同期と比べて6.1%増加しました。

(参考)

当第1四半期の単独業績の概況(単位:百万円、%)

単独売上高の内訳(単位:百万円、%)

	金額	前年同期比		金額	前年同期比
売上高	8,246	11.6	システムエンジニアリングサービス	5,073	15.4
売上総利益	1,536	8.7	オペレーションエンジニアリングサービス	1,638	8.1
営業利益	717	0.7	ネットワークエンジニアリングサービス	1,284	10.9
経常利益	782	1.7	情報サービス計	7,997	9.0
四半期純利益	473	2.8	プロダクトサービス	249	392.7
			合計	8,246	11.6

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	32,802	26,898	80.2	2,160 24
18年3月期第1四半期	29,847	24,333	81.5	1,989 76
(参考)18年3月期	34,785	26,547	76.3	2,172 36

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	177	403	405	6,116
18年3月期第1四半期	339	374	387	5,824
(参考)18年3月期	3,062	1,991	893	7,102